チャンジュンサン

張準相司祭・聖ガブリエル教会と大阪教区

戦後80周年記念講演会①

日本聖公会大阪教区宣教局主催

2025年10月25日　大阪聖ヨハネ教会にて

司祭　井田　泉

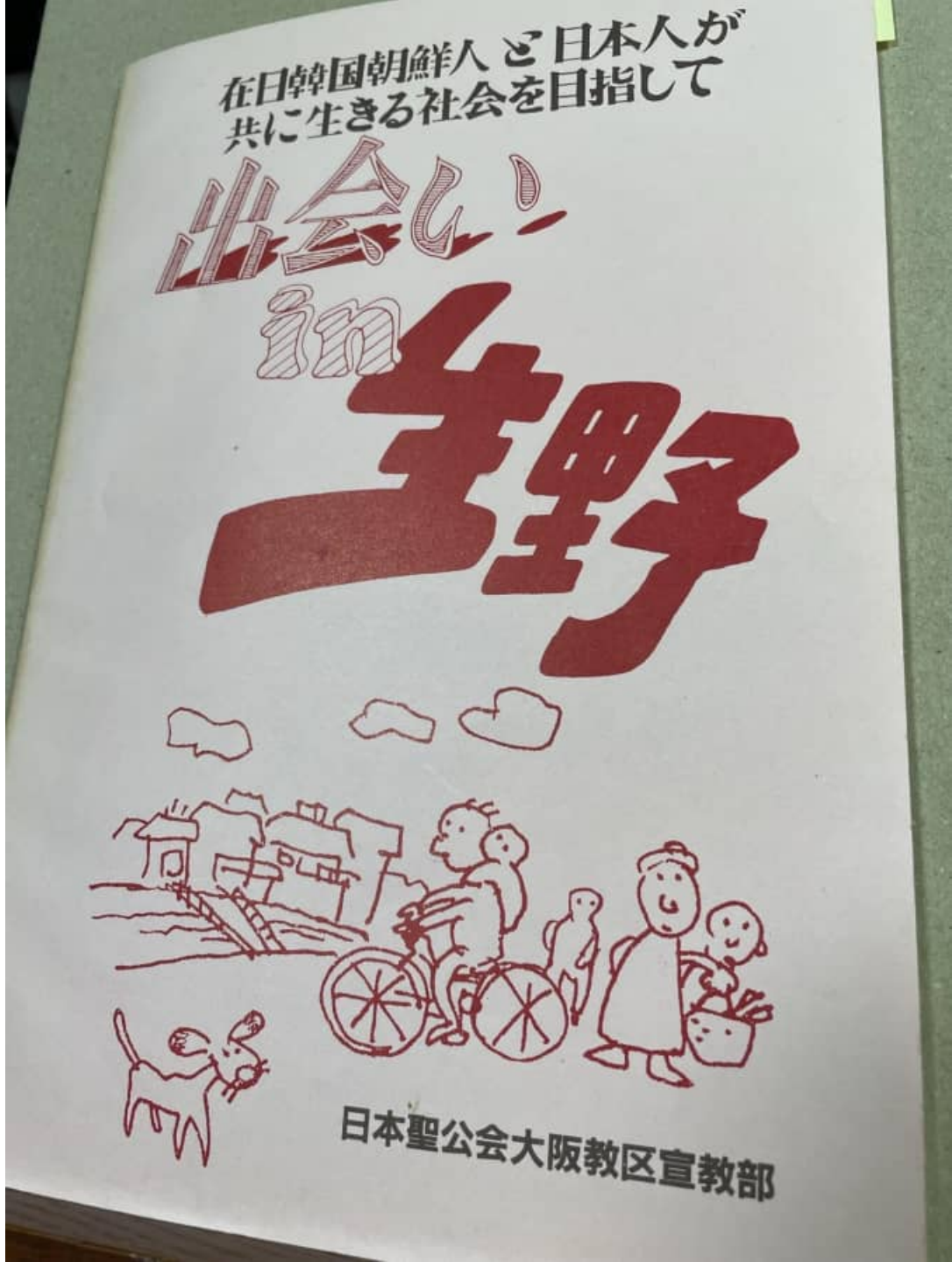
全国研修会

在日韓国朝鮮人と日本人が共に生きる社会を目指して

出会い in 生野

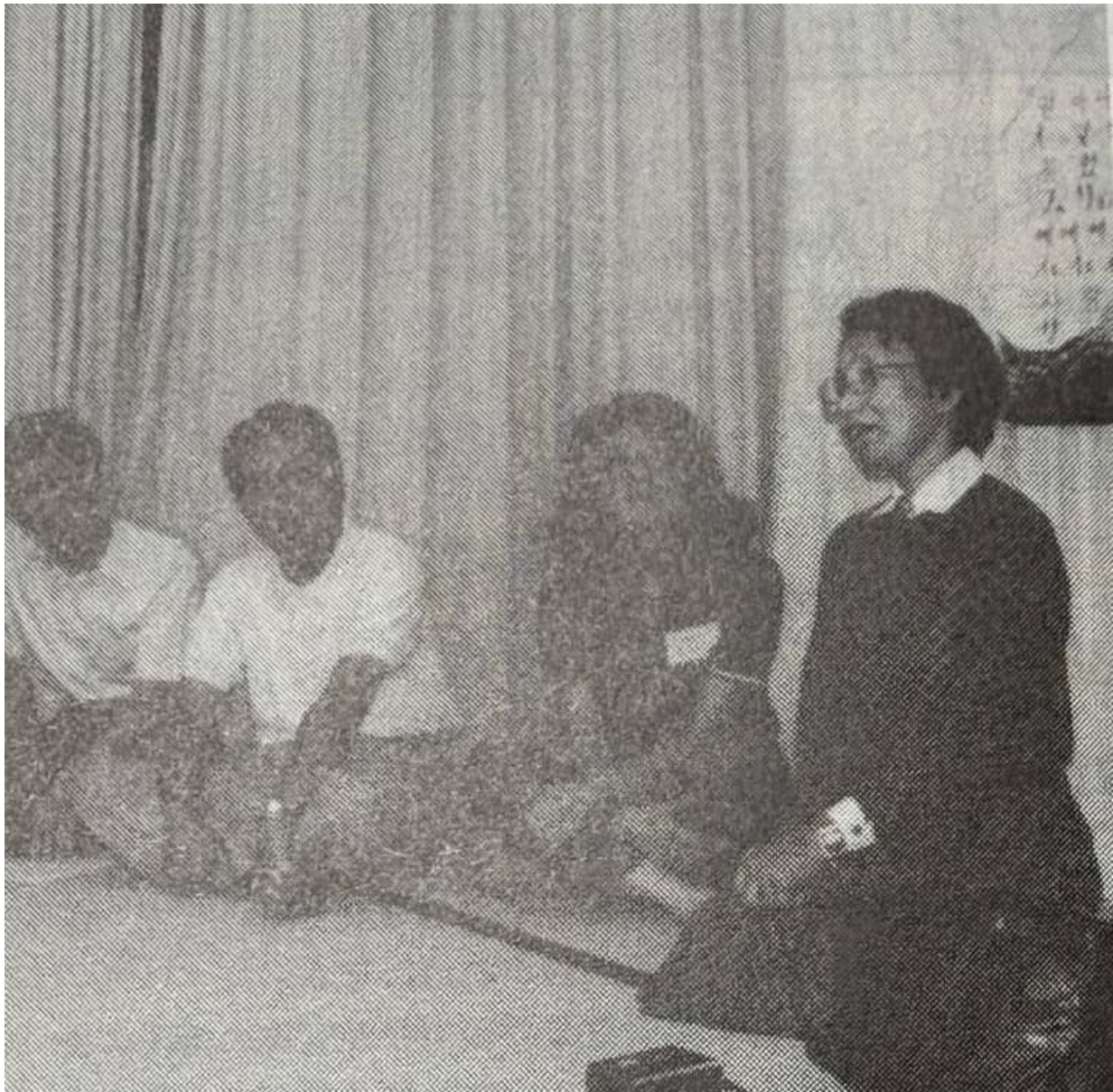
主催・大阪教区宣教部

参加者約50名　1989.9.22～24



張聖子さんの
身世打令から
(張準相先生の長女)

「私の父 張本栄は10歳で自分の国を失い、私は10歳の時に教会を失った。1941年（昭和16年）12月、戦争が始まった時のことです。」　　1989年9月22日



詔書

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國カ禍亂ノ淵源タルニ顧ミ曩ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ擧テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ

韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立テ其ノ康福ヲ增進期セヨ

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼大藏大臣侯爵桂太郎

陸軍大臣子爵寺内正毅

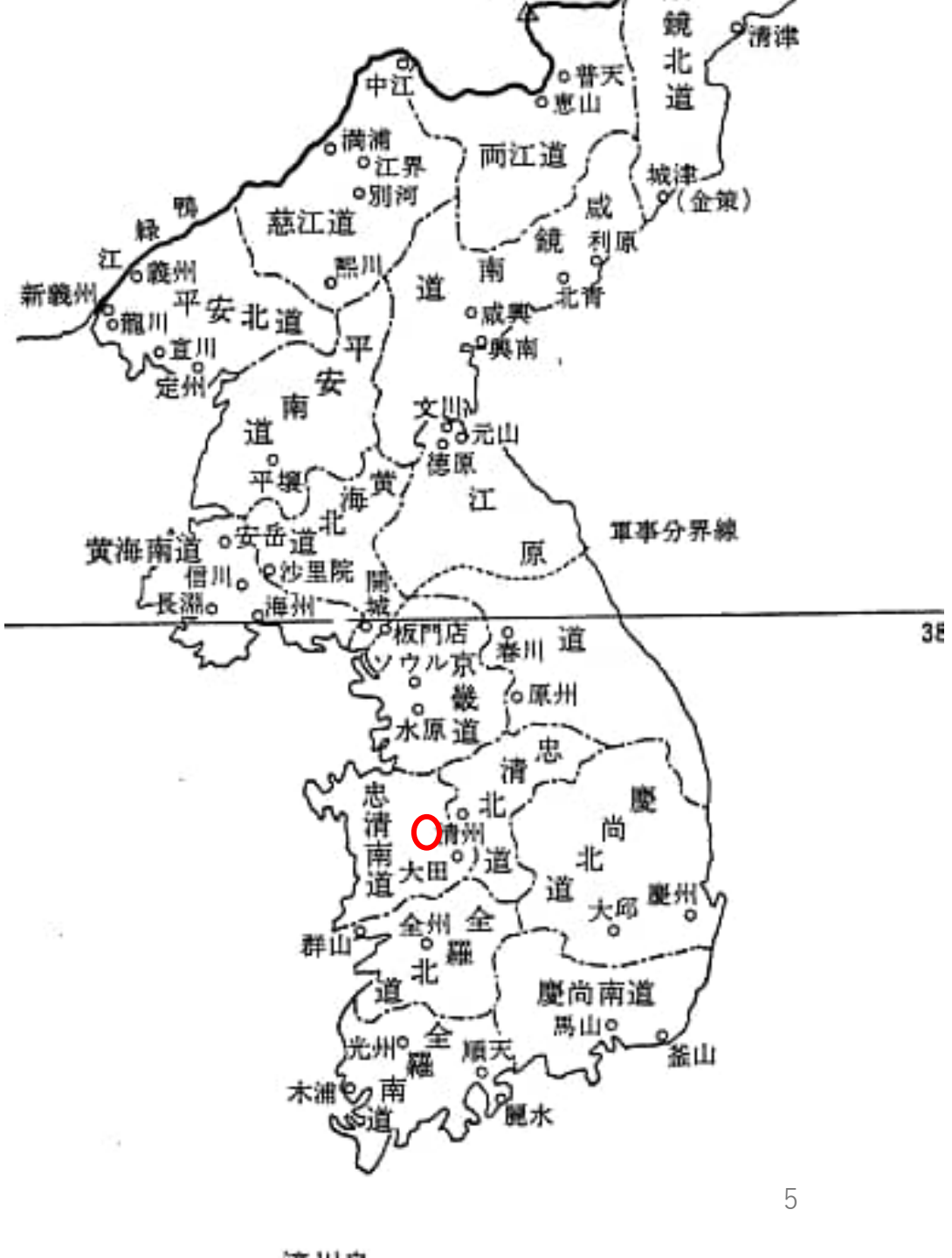
韓国併合ノ件（韓国併合二関スル詔書）

張準相（チャン ジュンサン）師
誕生とその時代

1900年 朝鮮忠清南道公州に生まれる
（右の地図赤印）

1904～1905年 日露戦争
1905年 日韓保護条約(第2次日韓協約)
日本は韓国から外交権を奪い、
独立国としての主権を奪った

1910年　韓国併合
日本による植民地支配（～1945）

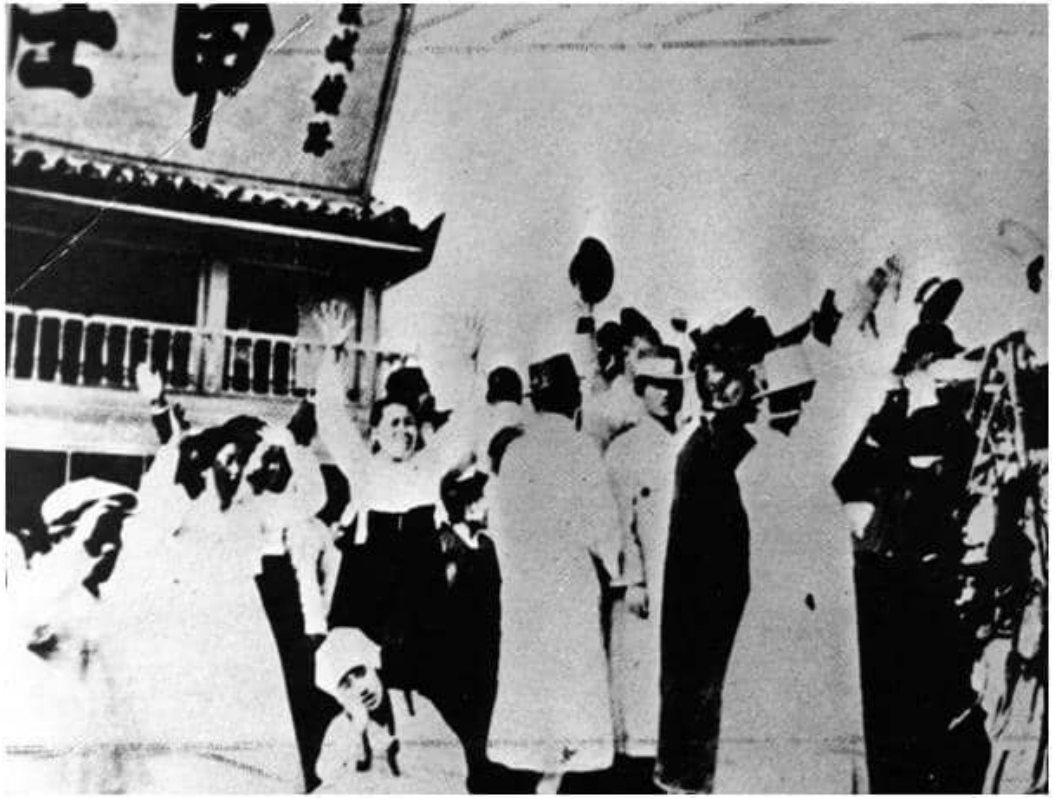


かつての一聖公会信徒の朝鮮観

「**釜山通信**」『基督教週報』１９０７（明治４０）年３月２２日号

「……韓国人の蒙昧なる故なきにあらず候、之れ等は惟り韓国のために憂ふべきのみならず、我仝胞は昨年十二月末の調査に於て八万人の移住者あり、隅ずみ隈々まで行き渡りて無教育なる韓人と雑居せる、彼等の子弟は釜山、京城、仁川其他の教会にありてこそ教育の機関も備はれ、田舎に入り込めるものゝ子弟に至りては終日空しく紙鳶を挙げたり、其他の韓人児童と仝一に青鼻を垂れて飛び廻りて過ごすのみにて、韓人ならぬ韓人が漸く出来つてある次第に御座候、韓国経営の為め、若しくは国力発展の為めに犠牲となれる彼等子弟は、誠に気の毒千万に御座候（伊木氏報）」

三・一独立運動　1919.3.1～



1910以来の日本の植民地支配に対し、1919年3月1日大規模な独立運動が起こった。

非暴力の独立示威に対し朝鮮総督府は武力による弾圧をおこなった。朴殷植『韓国独立運動之血史』によれば死者は7000人を超える。

キリスト教の参加が多く、数十の教会が官憲の焼き打ち等にあったと言われる。

張青年、独立運動への参加　1919

1916年　メソジスト教会(監理教)で受洗

1917年？ 単身渡日、吉村大次郎司祭と出会う／郡山中学校(奈良)に入学

1918年　立教大学文学部予科に入学

1919年　独立運動参加のため朝鮮に戻る

独立宣言ビラを配布中に拘束され
6ヵ月間懲役に服する

1920年　立教大学に復学

1923年　大阪聖パウロ教会でタッカー監督から
堅信を受ける(推薦者・吉村大次郎長老)　教名ヨハネ

関東大震災（1923.9）

今から102年前の9月1日

約10万人の犠牲者

根拠のないうわさ
官憲の荷担
→ 朝鮮人虐殺
6000人？

芋畑に逃げ込む朝鮮人
（当時本横小4年・山崎巌/高麗博物館HPから）

張準相と大震災

1923年4月　張準相氏、堅信（大阪聖パウロ教会にて）

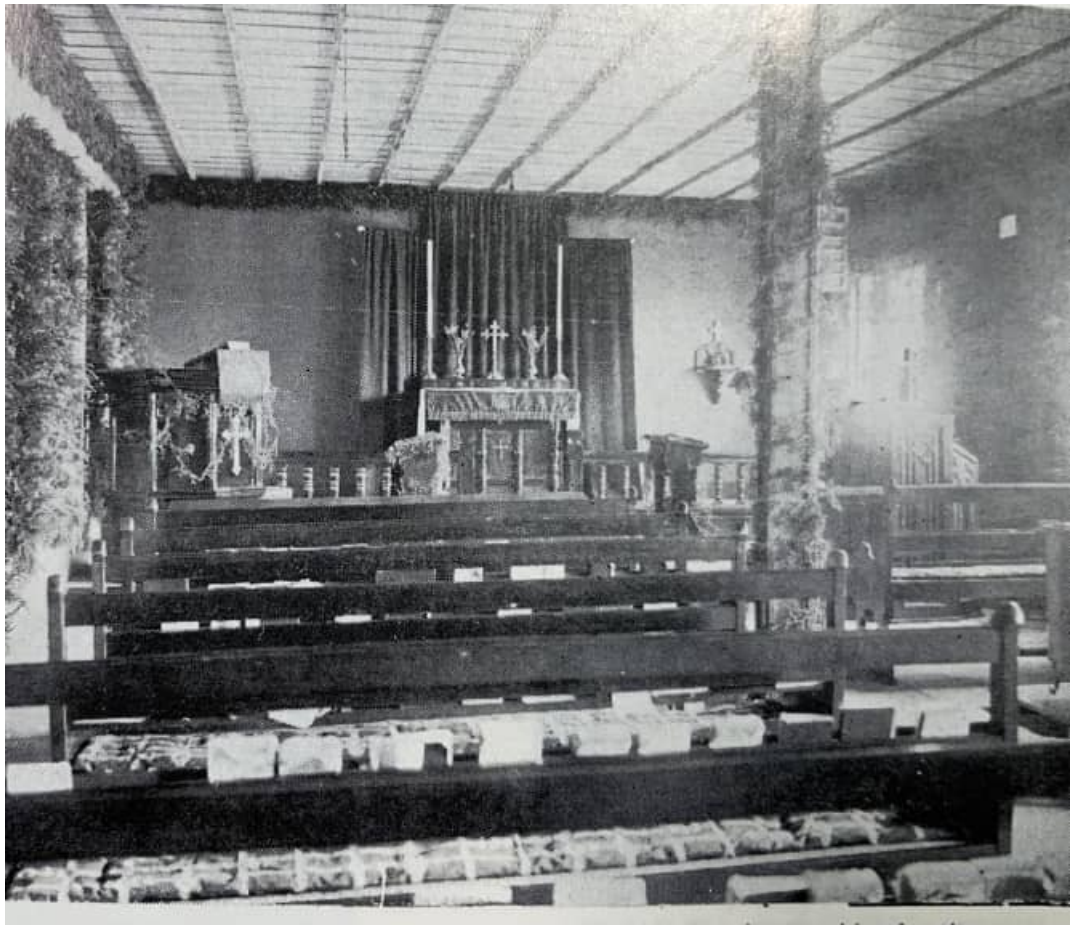
9月　関東大震災を経験（立教大学学生時代）
朝鮮人大虐殺の恐怖の中を東京脱出
奈良基督教会に吉村大次郎司祭を頼る

吉村司祭

「もし、あなたをだれかが殺しにきたら、
『この日本刀でまずわたしを殺してからにしろ』
と言ってやる」

吉村司祭をとおして張準相青年はキリストの愛を知る。
これを、苦難の中にある同胞に伝えたいと願い
伝道者として献身

→ 福岡神学校へ



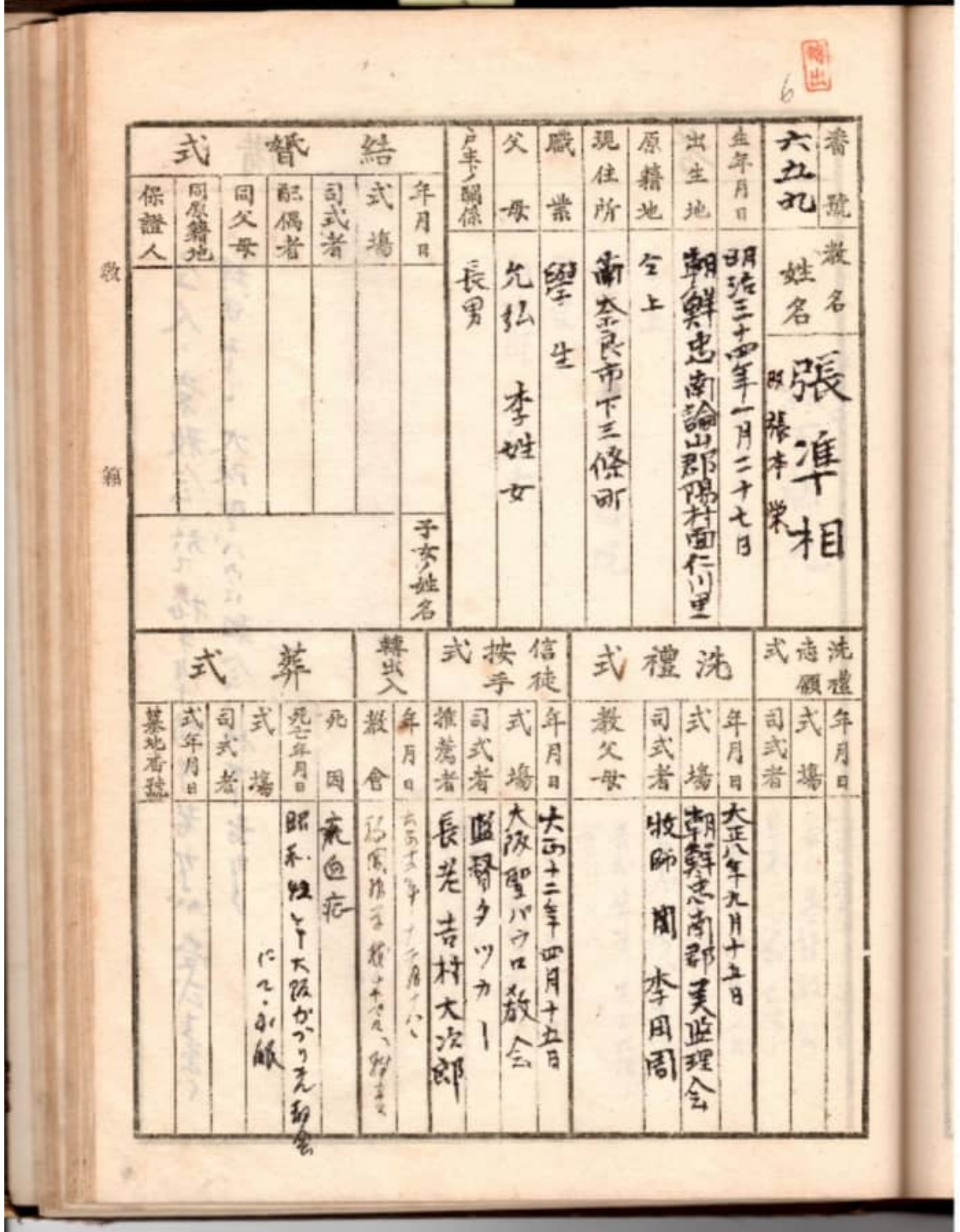
当時の奈良基督教会礼拝堂
（東向南町）

張準相氏

奈良基督教会教籍簿

姓名の左に「改 張本栄」

右上に「転出」の印



張師の活動

1926年　福岡神学校を卒業後、堺聖テモテ教会に赴任

細工谷朝鮮人教会を始める
（聖ガブリエル教会の前身）
聖ヨハネ学園敷地内

1932年　桃谷講義所を開設

桃谷講義所設立願

大阪府知事宛

教會所設立願

今般教會所設立致度候間御許可相成度左記事項ヲ具シ日本聖公會法規一部相添ヘ此段御願申上候也

一、設立ヲ要スル事項理由

数年前ヨリ當市天王寺区細工谷町六拾壱番地大阪聖約輸學園内ニ基督教研究続ケ且廣ク来聴講者増加シ現信徒トナルベキモノ多拾名ニ達セリ 然ルニ同學園ハ今般改築ニ再ビ借用シ得ザル事トナリシヨリ 茲ニ新教會所ヲ設ケ公然禮拝ヲ施行シ布教ヲ務メン為メ

二、設立ヲ終ルベキ期限

御許可ノ日ヨリ三ケ月以内

経由 大阪市役所

三、同派ノ教會トノ最短距離

大阪市天王寺区大道壱丁目 大阪聖救主教會迄凡ソ十七丁

四、名稱

日本聖公會桃谷講義所

五、所在地

大阪市東成区東桃谷町参丁目百七拾八番地ノ拾五

敷地

雑種地 貳畝貳拾六歩

及ビ右隣接地東成区勝山通九丁目九拾壱番地ノ拾八

畑（雑種地） 四歩

仝所 九拾壱番地ノ貳拾参

雑種地 拾歩

聖公会桃谷講義所（勝山伝道所）　1932年

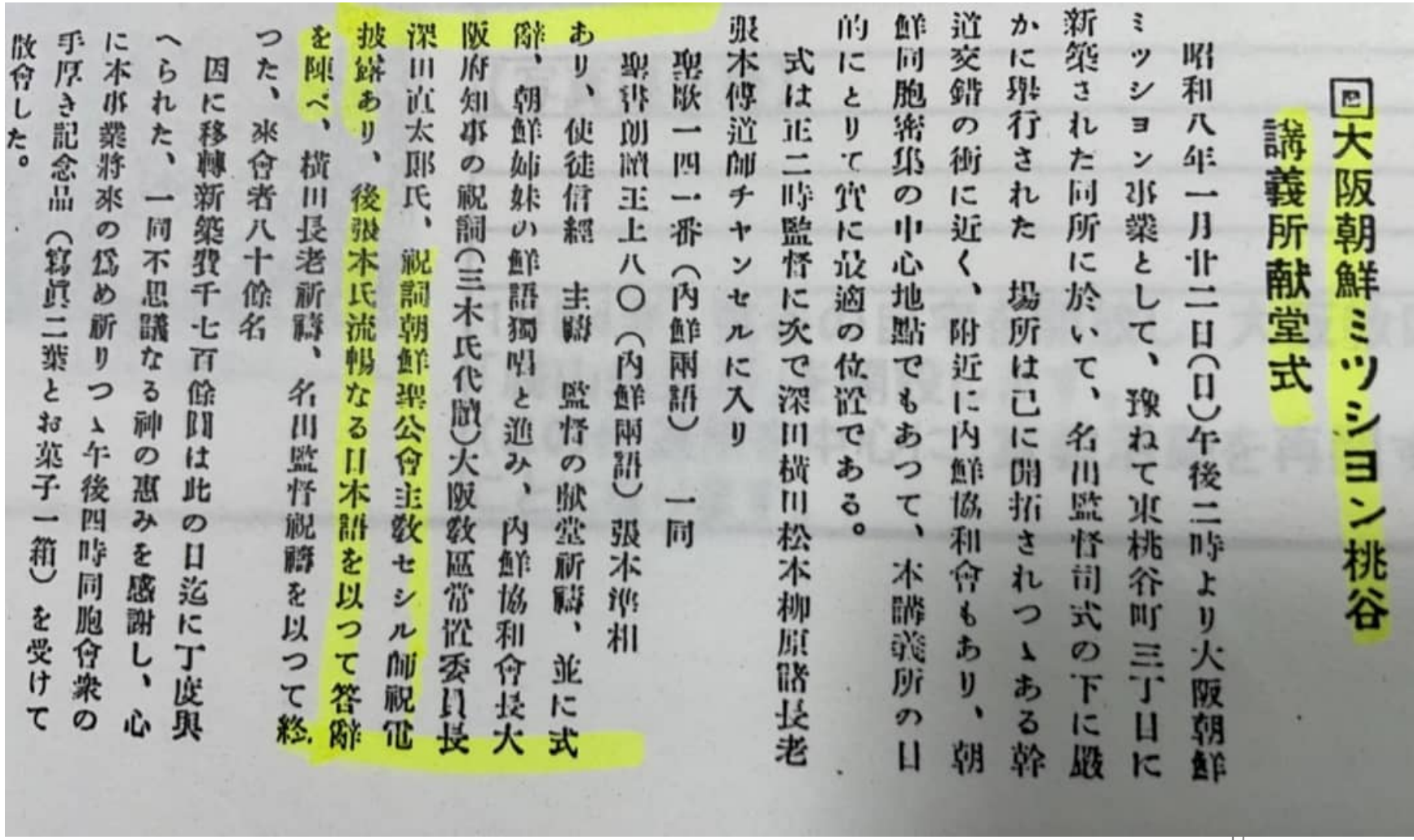
大阪朝鮮ミッション桃谷講義所献堂式　1933.1.22

『基督教週報』1933（昭和8）年2月24日号

「……深田横田松本柳原諸長老
張本伝道師チヤンセルに入り
聖歌一四一番（内鮮両語）一同
聖書朗読王上八〇（内鮮両語）
　張本準相

……朝鮮聖公会主教セシル師祝電披露あり、後張本氏流暢なる日本語を以て答辞を述べ、

※聖書はソロモンによる神殿奉献の箇所が朗読されたと思われる。



大阪朝鮮ミッション桃谷講義所献堂式

昭和八年一月廿二日(日)午後二時より大阪朝鮮ミッション事業として、豫ねて東桃谷町三丁目に新築された同所に於いて、名川監督司式の下に厳かに挙行された　場所は已に開拓されつゝある幹道交錯の衝に近く、附近に内鮮協和會もあり、朝鮮同胞密集の中心地點でもあつて、本講義所の目的にとりて實に最適の位置である。

式は正二時監督に次で深田横田松本柳原諸長老張本傳道師チヤンセルに入り

聖歌一四一番（内鮮兩語）　一同

聖書朗讀王上八〇（内鮮兩語）張本準相

あり、使徒信經　主禱　監督の獻堂祈禱、並に式辭、朝鮮姉妹の鮮語獨唱と進み、内鮮協和會長大阪府知事の祝辭(三木氏代讀)大阪教區常設委員長深田直太郎氏、祝辭朝鮮聖公會主教セシル師祝電披露あり、後張本氏流暢なる日本語を以つて答辭を陳べ、横田長老祈禱、名川監督祝禱を以つて終つた、來會者八十餘名

因に移轉新築費千七百餘圓は此の日迄に丁度與へられた、一同不思議なる神の惠みを感謝し、心に本事業將來の爲め祈りつゝ午後四時同胞會衆の手厚き記念品（寫眞二葉とお菓子一箱）を受けて散會した。

日本の戦争体制と植民地支配

1931年 満州事変

1935年 朝鮮のキリスト学校に対し神社参拝強要（→崇実学校等廃校へ）

1937年 日中戦争始まる

1938年 張師、執事按手

右『基督教週報』1938.2.20

基督教週報

第七十五卷第二十三號

昭和十三年二月十八日

三年毎に開かるゝ日本聖公會總會（第十九總會）は京都地方部監督の招請により今回は京都市に開かるゝことゝなり、二月二十日新議長名川監督より召集告示を發せらる。會場は平安女學院講堂、會期は四月二十六日より同二十九日までの四日間。本總會には重大なる議案輻輳する見込にて敎務院は目下其準備に多忙。

日本聖公會婦人補助會大會

是も三年毎に開かるゝ全日本聖公會大會は例により、日本聖公會總會と時を同うし場所も同じく京都に於て開催せらる。

大阪敎區の聖職按手式

傳道師要沖初氏の執事按手式は大齋前第二主日二月二十日に執行され十八日にはこの試驗按者は齋想日を守る事となつた。

執按第拾弐號

執事按手之證

張準相

明治參拾參年拾壱月拾壱日生

父ト子ト聖靈ノ名ニヨリテ　アアメン

神ノ允許ニヨリテ日本聖公會大阪教區監督タル我前記張準相ノ人ト爲リ敬虔ニシテ端正且ツ聖書ニ通ジ正シキ教義ヲ保チ學識ヲ具フルコトヲ信シ日本聖公會法規ノ條文ニ法リテ誓約セシメ救主降生千九百參拾八年弐月弐拾日日本聖公會桃谷講義所ニ於テ日本聖公會ノ制規ニ遵ヒ恭シク我ガ手ヲ按キ神ノ公會ノ執事ノ職位ニ敍ス

茲ニ救主降生千九百參拾八年我ガ聖別ノ第拾六年弐月弐拾日我ガ名ヲ署シ印ヲ捺シ以テ之ヲ證ス

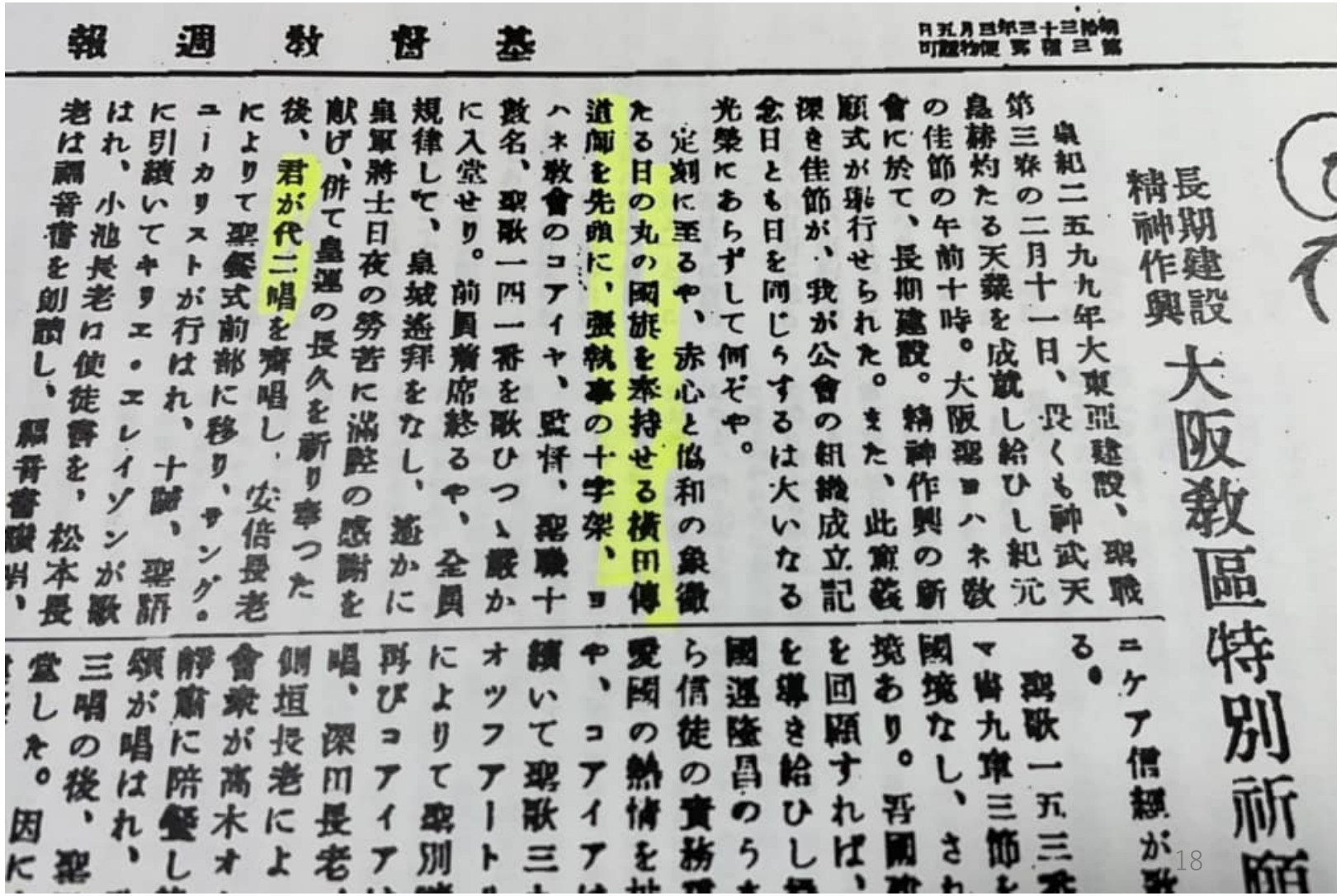
日本聖公會大阪教區監督名出保太郎

長期建設精神作興 大阪教区特別祈願式　1939.2.11

『基督教週報』1939(昭和14)年2月24日号

……定刻に至るや、赤心と協和の象徴たる日の丸の国旗を奉持せる横田伝道師を先頭に、張執事の十字架、……厳かに入堂せり。……全員規律して、皇城遥拝をなし、遥かに皇軍将士日夜の労苦に満腔の感謝を献げ、併て皇運の長久を祈り奉った後、君が代二唱を斉唱し、……

※同じ日、東京教区では「紀元節大礼拝」が行われた。



基督教週報

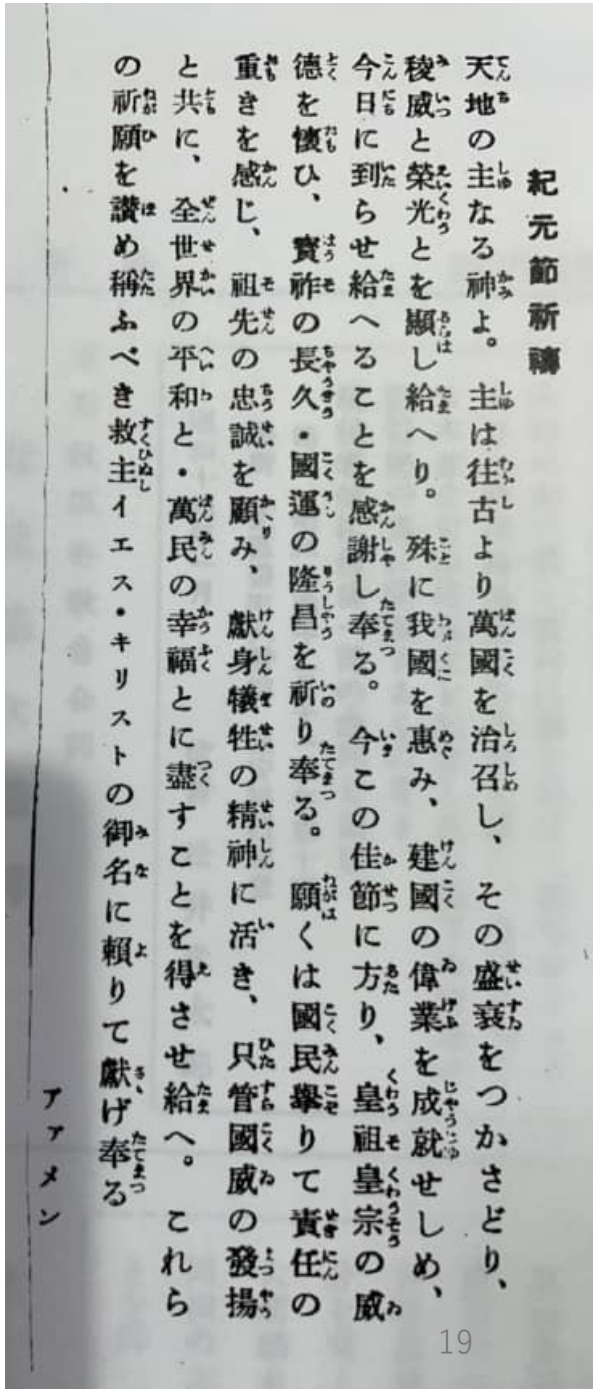
長期建設精神作興

大阪教區特別祈願

日本聖公会「紀元節祈祷」

天地の主なる神よ。主は往古より萬國を治召（しろしめ）し、その盛衰をつかさどり、稜威（みいつ）と栄光とを顕し給へり。殊に我國を恵み、建國の偉業を成就せしめ、今日に到らせ給へることを感謝し奉る。今、この佳節に方（あた）り、皇祖皇宗の威徳を懐ひ、宝祚の長久・國運の隆昌を祈り奉る。願くは國民挙（こぞ）りて責任の重きを感じ、祖先の忠誠を顧み、献身犠牲の精神に活き、只管（ひたすら）國威の発揚と共に、全世界の平和と・萬民の幸福に盡すことを得させ給へ。讃め稱ふべき救主イエス・キリストの御名に頼りて献げ奉る。

アァメン

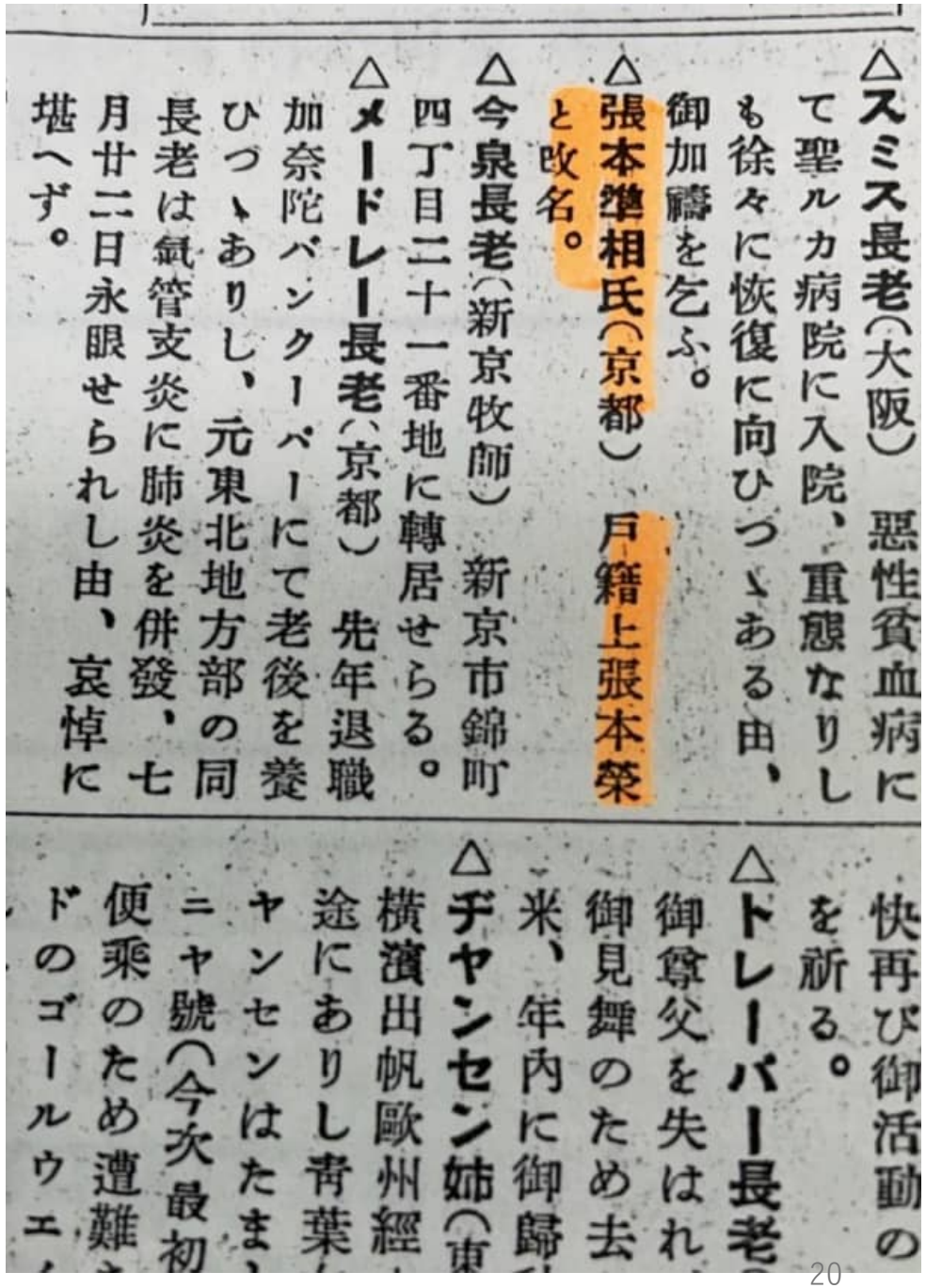

紀元節祈禱

天地の主なる神よ。主は往古より萬國を治召し、その盛衰をつかさどり、稜威と榮光とを顯し給へり。殊に我國を恵み、建國の偉業を成就せしめ、今日に到らせ給へることを感謝し奉る。今この佳節に方り、皇祖皇宗の威徳を懐ひ、寶祚の長久・國運の隆昌を祈り奉る。願くは國民擧りて責任の重きを感じ、祖先の忠誠を顧み、獻身犠牲の精神に活き、只管國威の發揚と共に、全世界の平和と・萬民の幸福とに盡すことを得させ給へ。これらの祈願を讃め稱ふべき救主イエス・キリストの御名に頼りて獻げ奉る

アァメン

1939年　「創氏改名」で
「張本榮（チャン ボニョン）」
日本名では「ハリモト サカエ」と
なる

右は『基督教週報』
1939年10月20日号の「消息」欄


△スミス長老（大阪）　悪性貧血病にて聖ルカ病院に入院、重態なりしも徐々に恢復に向ひつゝある由、御加禱を乞ふ。
△張本準相氏（京都）　戸籍上張本榮と改名。
△今泉長老（新京牧師）　新京市錦町四丁目二十一番地に轉居せらる。
△メードレー長老（京都）　先年退職加奈陀バンクーバーにて老後を送ひつゝありし、元東北地方部の同長老は氣管支炎に肺炎を併發、七月廿二日永眠せられし由、哀悼に堪へず。
快再び御活動のを祈る。
△トレーバー長老御尊父を失はれ、御見舞のため去、来、年内に御歸
△チヤンセン姉（横濱出帆歐州經途にありし青葉ヤンセンはたまニヤ號（今次最初便乘のため遭難ドのゴールウエ

1941年12月8日　張師、特高により逮捕、生野警察署に連行される

同じ日

昭和天皇による

「太平洋戦争開戦の詔勅

（米英両国ニ対スル宣戦ノ詔書）」

昭和16(1941)年12月8日

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル

大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝

有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ

陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ

百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ

各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力

ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算

ナカラムコトヲ期セヨ

帝國米英に宣戰を布告

西太平洋に戰鬪開始

布哇米艦隊航空兵力を痛爆

【大本營陸海軍部發表】（十二月八日午前六時）帝國陸海軍は今八日未明西太平洋において米英軍と戰鬪狀態に入れり

【大本營海軍部發表】＝八日午後一時＝

一、帝國海軍は本八日未明ハワイ方面の米國艦隊並に航空兵力に對し決死的大空襲を敢行せり

宣戰の大詔渙發さる

【情報局發表八日十一時四十五分】只今アメリカ、英國に對する宣戰の大詔が發せられ、また同時に臨時議會召集の詔書が公布されました

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衞ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

各國務大臣副署

二、帝國海軍は本八日未明上海に於て英砲艦「ペトレル」を撃沈せり、米砲艦「ウエイキ」は同時刻我に降伏せり

三、帝國海軍は本八日未明新嘉坡を爆撃し大なる戰果を收めたり

四、帝國海軍は本八日早朝「ダバオ」「ウエーク」「グアム」の敵軍事施設を爆撃せり

社說

帝國の對米英宣戰

朝日新聞

ヒスタメント

1941年12月9日の朝日新聞1面

張師、100日に及ぶ拘留と拷問

「４ヶ月後、ようやく甥の権寧珠が海軍の一等無線士として付き添い、面会が許された。張牧師は、連行されたときのままの丹前姿で、下着のひざとひじが擦り切れ、ホホは紫に腫れあがり、頭髪は真中がむしられ、血穴の跡がたくさん残っていたという。 後日、彼の語るところでは、手を首の後ろに回して組んだままの姿勢で正座をさせられたまま、たたかれたり、取り調べを受け、『天照大神とキリストの神はどちらが偉いのか』 と詰問されたという。取り調べに疲れた警官たちは、碁をうって休憩をしたが、張牧師は同じ正座の姿勢のままでいることを強制され大変な痛みと屈従を強制された。」

――宮嶋眞司祭「張準相牧師逮捕」から

（『日本聖公会宣教協働20周年大会 歴史資料集』2004.10.18 所収）

河蓮實さん（張夫人）は名出主教宅に駆けつけて「何とかしてください」とお願いをした。「そのときの主教さんの態度は、そっけないものだった」。

日本聖公会統理 名出保太郎監督による「訓示」　**12月16日**

「昭和**16**年**12**月**8**日、大東亜戦争の勃発に対して、畏くも宣戦の大詔渙発せらる。我ら恭しく之を捧読して恐懼感激、措く能はざるものあり、茲に一億皇民と共に、殉国報公の決意を新たにし、一意聖慮に副ひ奉らんことを誓ふ。……予は今日日本聖公会の各位に誥げんとす。各自は須く全心全精を傾けて聖戦目的完遂のために熱禱を献げよ。また與へられたる地位に於て実践躬行、大政に翼賛せんことを務めよ。」　『基督教週報』**19421.12.26**

当時、大阪教区は張師を放置。ただひとり安倍 騰（のぼる）長老（大阪聖パウロ教会）が付近の道を太鼓を叩いて回り励ました、という。

1942年　礼拝・集会禁止
　　教会閉鎖

1945年8月15日
　日本敗戦、朝鮮光復

1954年　張師、自宅を開放し
　　教会活動を再開

1956年　司祭按手

1966年11月4日　逝去

大阪聖愛教会前での司祭姿（前列右から4人目）

1992年再建

聖ガブリエル教会
こひつじ乳児保育園
聖公会生野センター

日本聖公会の戦争責任とその告白――それに至る経緯

1983　日本聖公会総会　祈祷書における「天皇のための祈り」等を削除する議案 否決
1984　第1回日韓聖公会宣教セミナー（ソウル）→聖ガブリエル教会に注視
1985　日韓協働委員会発足　第2回日韓宣教セミナー（大阪）
1986　日本聖公会総会「天皇のための祈り」等を削除する議案 可決
1988　冊子『天皇の代替りにそなえて』発行（1989　天皇代替わり）
1993　第3回社会正義に関わる委員会合同協議会
1994　第4回社会正義に関わる委員会合同協議会
1995　‘95日本聖公会宣教協議会
1996　日本聖公会第49（定期）総会「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」決議

〇この過程において聖ガブリエル教会の存在は大きかった

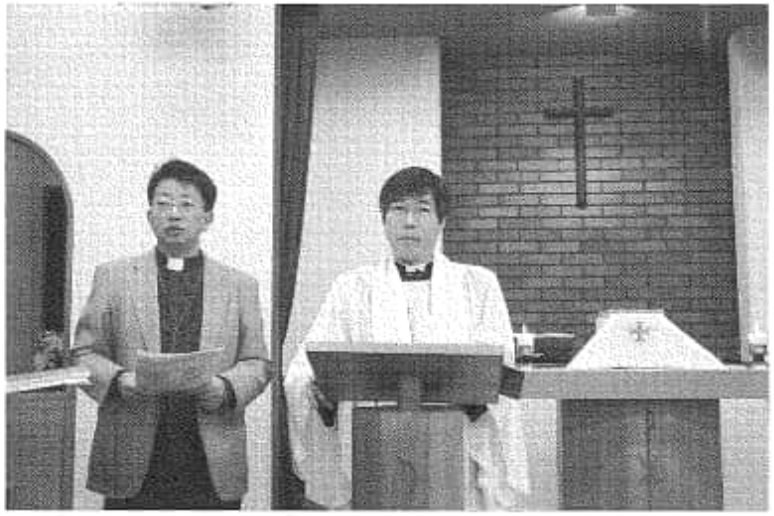
1997 大阪教区宣教協議会

咸仁公さん（聖ガブリエル教会）の発言

私の生きている間には、おそらく実現はないでしょうが、日本の社会変革され、単一民族国家なる幻想を日本人が捨て、 自分の国家の責任から生まれた「在日」の存在をそのまま自国に受け入れるように働きかけることも必要なのだと思います。「在日」 自身も、そういった意味で、隠さずに生きることが自身の解放の第一歩になるんだと思っています。 せめて、神様の前ではそうしましょう。 日本国籍をあらたに取得された方々も、やみくもに日本人になろうとするのではなく、新しい「日本国籍者」 として 「在日」 文化を堂々と打ち出せばいいと思います。

共に行こうこの道を（ルカ5:1−6）

故張準相（張本栄）牧師追悼礼拝説教



張司祭の追悼礼拝で説教する金根祥司祭（右）と
通訳の任大彬司祭（左）

2006年12月12日
聖ガブリエル教会（聖公会生野センター）にて
説教：金根祥司祭（ソウル教区）

父と子と聖霊のみ名によって、アーメン

まず聖書の物語に耳を傾けてみたいと思います。ゲネサレト湖畔で夜通し苦労して漁をしたにもかかわらず、シモン（ペテロ）一行は一匹の魚さえもとることが出来ませんでした。イエスは彼らに「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われました。もしペテロがイエスのお話しに従わず、網を引き揚げてしまったら、イエスの言葉はむなしくなってしまいます。前後の状況から考えると、そのようになる可能性はかなり高いでしょう。漁師として成長したペテロ、初対面のイエス、神の働き人に変わります。

1900年12月、今から106年前、大韓帝国（当時）忠清道公洲郡面草鳳里に張萬石にという一人の子が生まれました。そして、1966年大阪警察病院で逝去されました。66年間を生きておられましたが、張先生は生涯、様々な事情により「してはいけないこと」ばかりを選んで生きておられました。これは、先生が独立運動に関わったこととか、特別な職業即ち炭売りや醤油販売などのことを言おうとしているのではありません。

張先生は伝道師として13年間、執事として18年間、そして司祭として10年間を過ごしながら、日本にいる朝鮮人を対象に伝道活動に生涯を捧げました。それを言うためです。考えてみればお分かりでしょうが、言葉どおり日本帝国主義の時代に半ば強制で連れ出せられてきた朝鮮人にキリスト教の信仰を伝えるということは、全く鼻で笑われるような無謀なことでした。

張準相牧師追悼礼拝

2006年12月12日
聖ガブリエル教会にて

説教・金根祥司祭
(大韓聖公会ソウル教区)

聖公会生野センター
『ウルリム』第42号

日韓聖公会合同・故司祭ヨハネ張本栄逝去者記念礼拝　於：聖ガブリエル教会　2017年3月22日

吉村大次郎司祭　　逝去者記念の式

2019年8月22日　奈良基督教会
司式・司祭　井田　泉

1864年　誕生
1890年　洗礼（ドーマン司祭より）
1891年　堅信（ヘーア主教より）
1895年　東京聖三一神学校卒業　　後、渡米し太平洋神学校に留学
1900年　司祭按手
1913年　奈良基督教会に赴任（奈良基督教会最初の日本人主任司祭）
1916年　張準相（後の張本栄師）青年との出会い
1923年　関東大震災　張準相青年を支え、励ます
1930年　現 奈良基督教会礼拝堂献堂聖別　親愛幼稚園開園（初代園長）
1935年　退職
1943年　逝去 満79歳

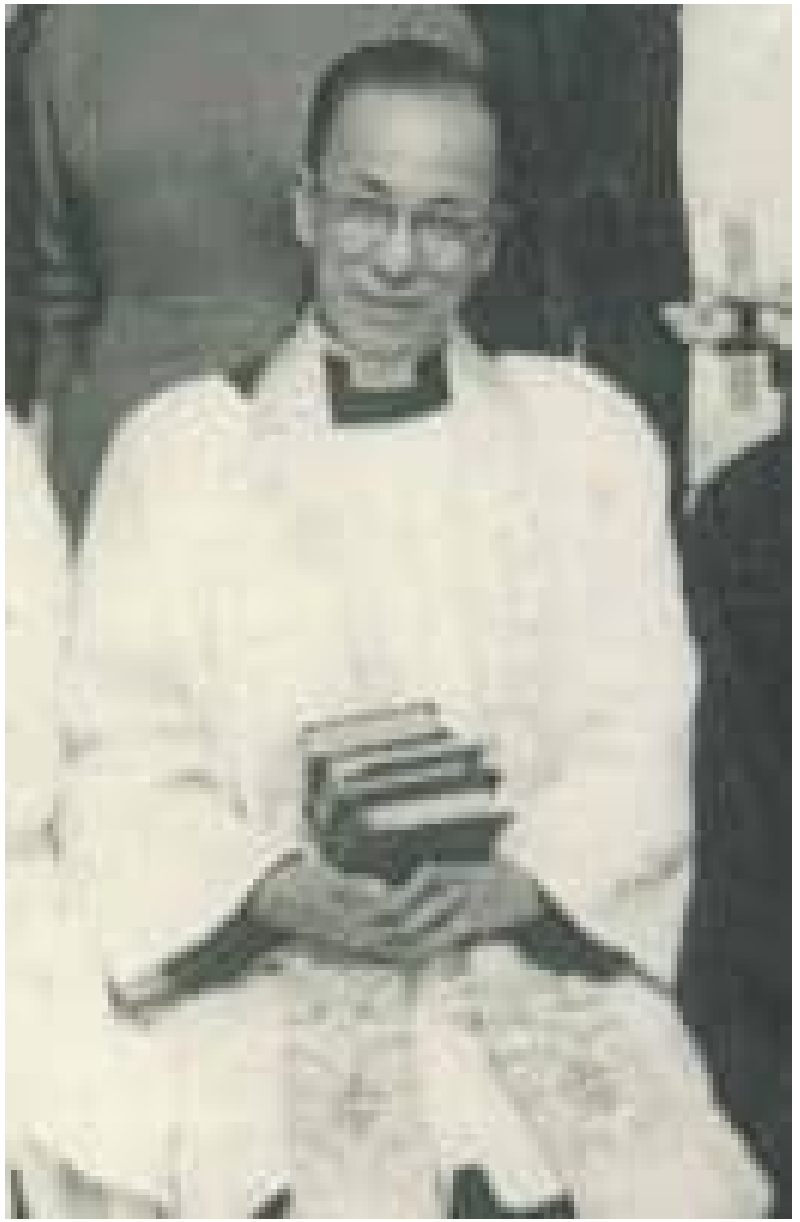
聖歌　３９７（わがために行きて）

張聖子さんの要望により
吉村大次郎司祭逝去記念式
と墓参（奈良基督教会墓地）2019.8.22

張準相司祭は今、わたしたちに何を語りかけるか

ヘブライ人への手紙第13章

「1 兄弟としていつも愛し合いなさい。……3 自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。」



排外主義の高まる今こそ、歴史に学びそれを生かそう